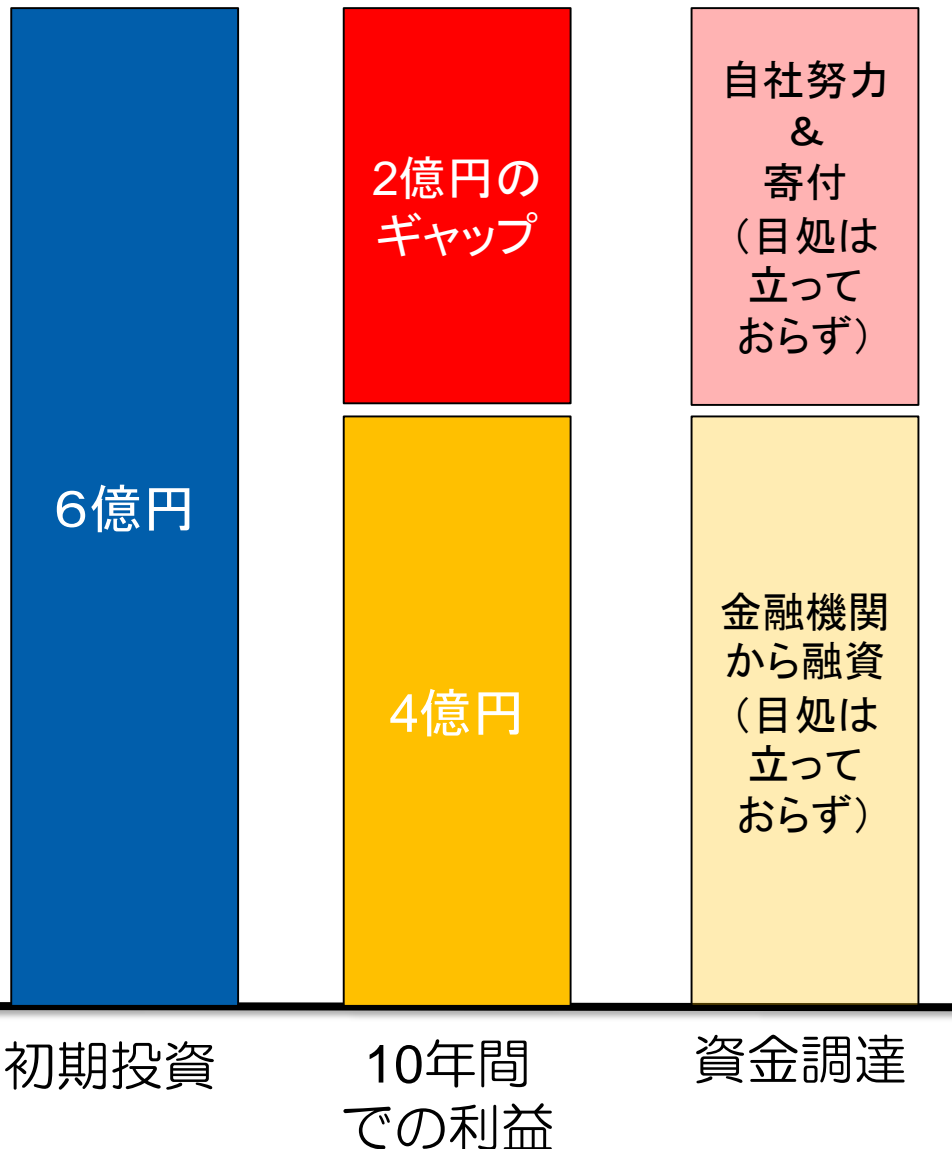


いしわりへの1.8億円加算の経緯と反省

2016年8月30日

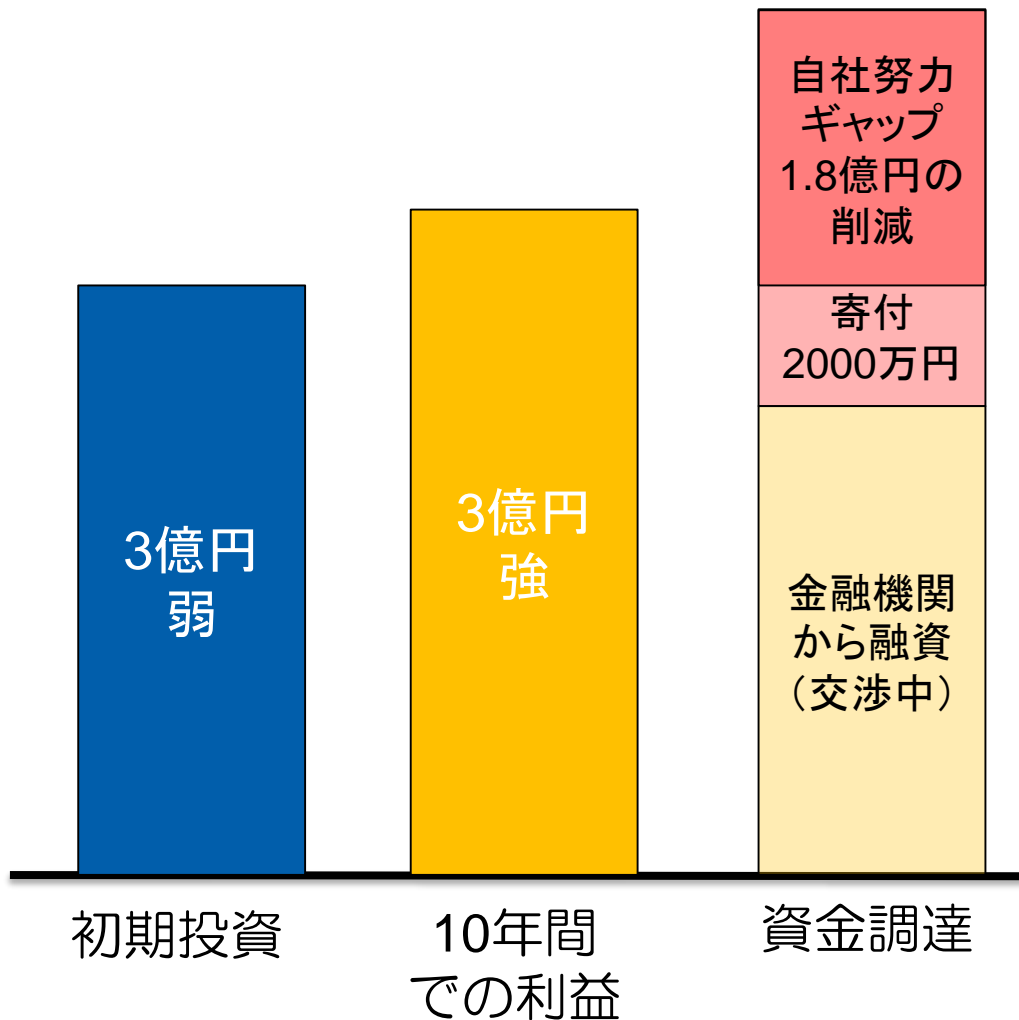




ギャップの解消方法として2つを想定

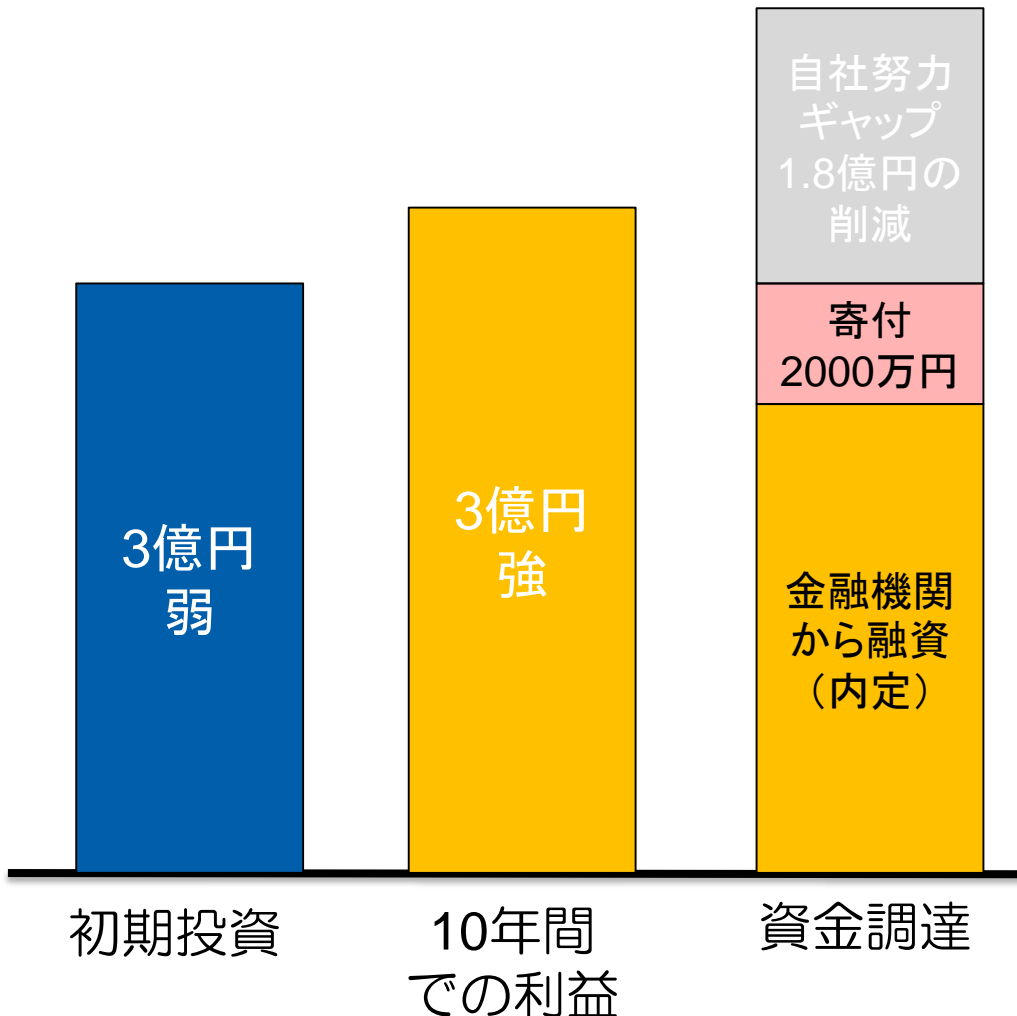
- ①上町家守舎の自社努力
例：経費削減、売上UP
 - ②寄付
 - ・クラウドファンディング (以下、CF)
 - ・振込寄付 (FAX、メールetc.)
 - ・コラボ寄付 (ワイン、写真集etc.)
- ①、②の進捗を「いしわり」の画面上で合算して表示する方式を採用

■いしわり上の目標金額は「ギャップの2億円」と設定し、CF以外の進捗も連動させるため『通常のCFとは性質が異なる』という説明が不十分であった



ギャップは解消できた！

- 寄付で2,000万円は集められる
(進捗1,500万円強から推測)
前提で事業計画を構築し、
金融機関へ融資依頼
(融資OKかは未定)
 - 目標金額は2億円のまま、
「変更予定」は説明会で告知
(目標金額を変更すると
「融資NG、復活断念」でも
CFが達成し、申込者に課金
されるリスク懸念)
- 「金融機関の融資が内定したら
1.8億円加算。寄付の目標金額を
2,000万円に変更します」という
具体的な情報を公開すべきだった



8月25日 金融機関から融資内定！

後は寄付関連で2,000万円以上を集めることができれば
描いた事業計画の絵通りになる
(この時点で「大食堂復活」は
ほぼ現実的になっている)

→

8月26日 目標金額を変更

目標金額を「削減」が不可のため
「自社努力で削減した1.8億円」を
「システム的に加算」した
(つまり、原資は特に存在しない)

■変更と同時に説明会や記者会見で
状況を説明すべきであった

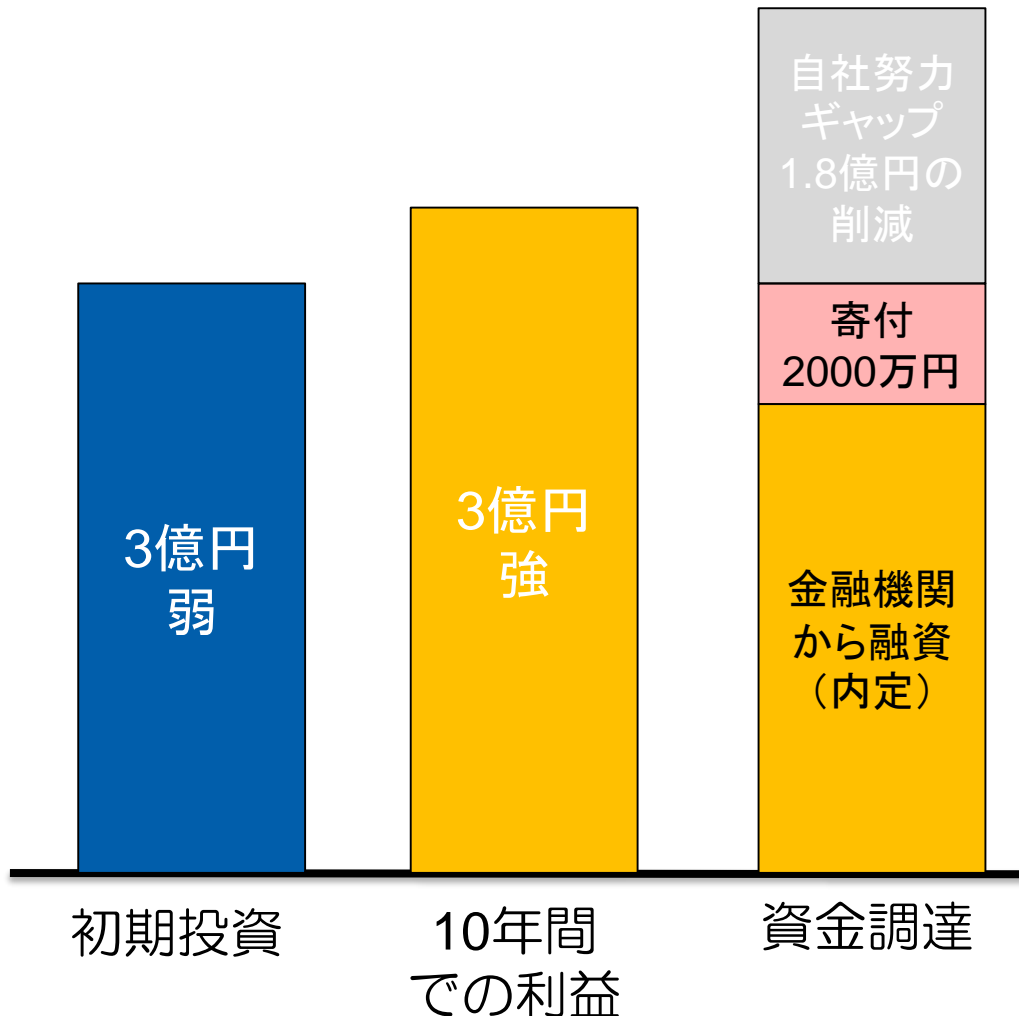
8月30日 岩手日報社の報道

報道のインパクトが大きく、
いしわりの注目度が一気に増加。
「自ら1.8億円を上積み」の表現で
「当社がどこかから調達した
お金をシステムに反映させた」
と勘違いされて情報が広がる。

上記により

- この1.8億円の原資は何？
- いしわりの運営者に
多大な手数料が入るのでは？
- CFシステムで自分で資金を
上乘せするのはルール違反では？

という波紋を産んだ。



各スライドの赤字で書いた部分が反省であり、

- 『通常のCFとは性質の違うプロジェクトになっている』という告知を分かりやすくまとめることや、都度発信することで、途中からプロジェクトの存在を知った人などに十分に理解できるような状況を作ることが出来たはず
- 8月26日より早いタイミングで「金融機関からの融資が内定したら目標金額を変更する」というのを告知することが出来たはず
- 変更した時の説明をもっと詳しく行うことで、岩手日報社が正しい報道ができる手助けが出来ていたはず

という「出来たはずのことが沢山あった」と思っております。

誤解や不信を招く結果になってしまい、大変申し訳ございませんでした。

ご質問やご意見があれば、上町家守舎の小友（おとも）までご連絡下さい。

info@hanamakiyamori.com